

このコーナーでは、
農業のちょっとしたコツを、
市の営農指導員から
お知らせします。

営農指導員の ワンポイントアドバイス

営農指導員 永奥 はじめ

ヒマワリの栽培

経営上の特性

夏の代表

的な花の一つで、近年では新しい品種が発売され、オレンジ色やレモン色のほか、白色や茶褐色など、花色が豊富になってきています。



また、播種から開花までに期間が短いものが多く、最短では45日というような品種もあります。

作型

ヒマワリは、年間を通じて栽培できますが、庄原市では気象や消費の両方から考えて、6月〜8月の播種が無難です。
例えば7月上旬の播種なら切り花は8月下旬になります。

栽培の方法

生育中に水分や肥料分が充分に与えられると茎や葉、花が大きく

なり過ぎて商品価値が大きく低下するため、栽培には肥料分が少なく、乾きやすい場所を選びます。

① 播種

播種の間隔は畝幅120センチ、条間は15センチ、株間は12〜15センチ程度とします。

1カ所に2〜3粒を播種し、本葉が3枚くらいになるまでに、1本に間引きします。

ヒマワリは間隔をあけすぎると、茎葉や花が大きく育ち過ぎるので、密植気味にしてコンパクトに育てることが大切です。

② 肥料

肥料が多いと大きくなり過ぎて品質を落とすので、通常は無肥料で栽培し、葉色などの生育状況を見ながら液肥などで調整します。

③ 病害虫

▼うどんこ病：葉が白い粉をまぶしたようになります。定期的に薬剤散布することが大切です。

▼ハダニ類：梅雨明け後、高温乾燥で発生が多くなります。殺ダニ剤で発生初期から防除することが大切です。

問い合わせ

農業振興課 農業振興係
☎ 0824・73・1132

第4話



街道沿線に存在するさまざまな資源をシリーズでお伝えする「比婆いざなみ街道物語」。

第4話は街道の始点（終点）となる東城地域にある「比婆道後帝釈国定公園」の魅力に迫ってみます。

上帝釈を歩こう！

帝釈峡の入口では、その名の由来となった「帝釈天」を祀る「永明寺」と朱色の橋が迎えてくれます。溪谷へ続く遊歩道は、足を踏み入れた途端、空気がひんやり。木々が生い茂った小道の横には、帝釈川が流れています。川のせせらぎや、カジカガエルの美しい鳴き声、鳥のさえずりに癒やされながら、周りを見ると、石灰岩で形成された美しい溪谷と、さまざまな山野草が目の前に広がります。

世界有数の天然橋「雄橋」

石灰岩が形作る鍾乳洞「白雲洞」や、天然橋「鬼の唐門」など、長い時をかけて自然が作り上げた自然美を堪能しながら歩いていくと、国天然記念物に指定されている「雄橋」に到着。

かつて「雄橋」は生活道として使われていました。橋を見上げるとかなりの高さ。高い所を歩くのは怖いな、と感じながらも、激しい流れで魚も上れないといわれる「断魚溪」へ。

約2時間、きれいな空気を吸いながらゆっくり歩くと、体も心もリフレッシュできます。

時悠館へ行くこう！

上帝釈には、国指定史跡「寄倉岩陰遺跡」など、石器時代の岩陰遺跡や洞窟遺跡があり、貴重な土器や人骨が多数出土しています。そのような貴重な出土品などを展示しているのが、帝釈峡博物館施設「時悠館」。

古代の人々が、帝釈峡でどのように暮らしていたか、「時悠館」のタイムトンネルを通じて1万年以上前の帝釈へ出かけてみませんか。



問い合わせ

いちばんづくり課 いちばんづくり係
☎ 0824・73・1278